

○地元行脚で大いに汗流す

国会が一段落して、久しぶりの地元行脚では、様々な課題が出てきます。

「油の元売りは、売値価額を一方向的に吊り上げてくるだけではなく、売り惜しみをして私たち運送業界に対し、この際とばかりに圧力をかける。売り渡し価額も、相手によって大きく差をつけて牽制している。これは、不当なやり方だ。」

「建築確認の事務は、いまだに遅れている。それだけでなく、一旦提出した書類の間違ひに対して、その部分だけの訂正や書き換えが認められず、確認申請は却下される。その上で、書類の出しなおしとなると、申請手数料をもう一度要求された。理不尽な金を払わされるのは、納得できない。」

「外国人の無免許、無保険での自動車運転に対する対策が必要。まじめな人は、ブラジルまで免許を取りに一時帰国する。どうして、日本でポルトガル語やスペイン語で試験を受けさせることをしないのか。」

その他、道路改良の遅れ、公共事業による漁業補償の積み上げ、職人の労働報酬が請負として処理されることの理不尽などなど、枚挙にいとまのないほどに日常の中で国民の直面する問題は沢山あります。

その都度、役所に電話をかけ問題の指摘をして、改善の努力を求めています。窓口の役人のやる気だけで改善されるものもありますが、多くは、法や政省令基準の改正とか、新たな仕組みづくりとかをやらないと解決しないことも多いのです。国会が始まるのを待って、こうした現場の声を一つ一つ弾込めしたものを、委員会議論や党の政策で取り上げて、改善できるように動かす努力をしています。

これまで取り上げた課題の中では、地域の防犯活動で使えることになった「青色回転灯」が成功例です。当時、空港だけでしか使えないことになっている

から勝手に使うのは駄目だ、と言っていた国土交通省のかたくなな基準をひっくり返したのは、四日市の別山団地の熱心な市民活動です。ここから全国にブレイクしていったのを見るのは、楽しいことでした。

国会の論議も、現場に立脚したものほど、強くて説得力があり、実現もしていくものだと納得しながら、仕事を楽しんでいきます。

○「次の内閣」五島列島に飛ぶ

民主党次の内閣のタウンミーティングで、九州の五島列島を訪れました。自らも島で牛を飼っていた「次の内閣」山田正彦農林水産大臣の生まれ故郷です。長崎から小さな飛行機で飛ぶ、隠れキリシタン殉教の島々です。

福江島でのミーティングは、1000 人を超える参加者で溢れ、熱気に満ちた意見や質問の中で、私たちは、改めて離島や過疎地域の厳しい現実に関心した感じがありました。4万人の人口で、毎年4000人からの島民が流出していること、肉牛を中心にした牧畜（三重県にも多く入ってきている子牛の一大産地）や漁業が、飼料作物や油の高騰で、経営の危機に直面していることなどとともに、本土と結ぶ高速船や航空運賃の引き上げが島民の深刻な孤立感に結びついています。これ以上格差を広げて国民の不安をあおるような政治は、ここでストップ。日本のどこに住んでも、生活を安定させ、将来への希望が持てる政治を実現して欲しい。民主党はしっかりしろ。短くまとめれば、このような住民のメッセージ。厳しい現実なのでしょうが、みなのカラッとした明るさが、余計に心に沁みました。

それにしても、行きは、東京、朝8時発のANAで福江空港 11 時着。帰りは、同じ日の夕方 7 時発で、名古屋空港に9時着。日帰りができるんですね。離島のイメージも変わってきました。